

<b>第26回奈良市子ども・子育て会議 会議録</b>			
開催日時	令和元年11月18日（月）午前10時から正午まで		
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第22会議室		
出席者	委員	浜田副会長、石井委員、梶田委員、金野委員、亀本委員、國原委員、栗本委員、田畑委員、山下委員 【計9人出席】	
	事務局	<b>【子ども未来部】</b> 真銅子ども未来部長、小澤子ども未来部次長、玉置子ども政策課長、大前保育総務課長、米田保育所・幼稚園課長、池田子ども育成課長、野儀子育て相談課長 <b>【保健所】</b> 槇田母子保健課長 <b>【教育委員会事務局】</b> 川端地域教育課長補佐 岡本学校教育課長補佐	
開催形態	公開（傍聴人：0名）	担当課	子ども未来部子ども政策課
議題 又は 案件	1 案件 （1）「奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン」の進捗状況の報告 （2）第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画について		
決定又は取り 纏め事項	・「奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン」の進捗状況について原案通り承認された。 ・第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画について原案通り承認された。		
<b>議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等</b>			
1 審議事項 （1）「奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン」の進捗状況の報告 ・事務局から、「奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン」の進捗状況について、説明を行った。  ・亀本委員 事業No. 2「教育・保育施設及び地域型保育事業の整備」について、平成30年の評価に人材確保等のソフト面と書かれていますが、具体的にソフトが何を指すのか市民目線でわかるように書いた方がよいと思います。施設整備だけではなく人材確保にも力を入れてやっていくという方向性を示すべきだと思います。			
（2）第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画について ・事務局から、第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画について、説明を行った。			

ア) 計画策定スケジュール状況、及び計画書素案1章～4章、6章について

- ・石井委員 新たな取り組み案として、「ダブルケア世帯への支援」を提案します。最終的には専門窓口を設置するぐらいの気持ちで、奈良市でどれくらいの方がダブルケアをなさっているのかという調査を、一度されるのもよいのではないかと思います。
- ・栗本委員 奈良市も子育てコンシェルジュにあたる取り組みを進めていらっしゃると思いますが、どこで、どのようなかたちで支援しているのか、実際には市民の方に伝わっていないのではないかと思います。実施に関して、現状どのようなかたちになっているのか計画の中に入れていくことも提案したいと思います。

イ) 計画書素案5章の教育・保育事業について

- ・亀本委員 本計画は当初、若い子育て世帯の定住人口の増加を目指した計画であったが、新たな計画策定の現在においては、定住人口も含めた人口動態が全て右肩下がりになってきたので、補正をかけるという受け身のようなプランになってきているのではないかと思います。  
また、教育・保育事業の量の見込みについては、女性の就業率が伸びていて、なおかつ男性の協力も得にくいという実態を踏まえると、2号3号認定を必要とする人たちの保育需要がますます増えてくると考えられるので、正直なところ、予測されている数値よりももう少し量は増えるのではないかと思います。しっかりと中間見直しをして、計画通り行えば待機児童ゼロになると実証できるよう、実績に応じてプランを修正していかなければならないと思います。
- ・栗本委員 今回実績として挙げられているのは、市で管理されている保育施設のみですが、企業内保育園の数も増えてきておりますので、そちらの調査も行わなければ、奈良市内全体の正確な保育実績やニーズの把握ができないと思います。
- ・山下委員 子どもが幼稚園、保育園、学校に行っている間にパートで働きたいと思っているお母さんたちのニーズは増えると思いますので、保育認定の下限時間を64時間にする時期と計画をうまく合わせていかないとミスマッチが起こってしまうと思います。
- ・國原委員 保育士不足という状況の中で、今現在定員が割れている保育園を満たすということも考えながら、新しい施設が必要なのか、それとも他の

部分で養護が必要なのかということを見直しの際に考えていかなければならないと思います。また、奈良市で子育てがしたいと思えるような保育所や幼稚園の整備を考えると、待機児童をゼロにするということも大切ですけれども、どの地域にどのようなかたちで子どもの施策があるのかということを考えて進めていただきたいと思います。

ウ) 計画書素案5章の地域子ども・子育て支援事業について

- ・石井委員 一時預かり事業につきまして、無償化の影響で一時預かりを利用したくても利用できないという方も出てくると思いますので、一時預かりの待機も見込むことで数値も変わってくるのではないかと思います。
- ・山下委員 子どもが0～2歳の間は家で保育・育児をされている方が多いのですが、近隣に助けてくださる方がいない家庭にとって、一時預かりは非常に重要です。厳しい数字が出ていますが、そういった在宅の子育て家庭のニーズに何かヒントがあると思います。
- ・田畑委員 こども園を増やして待機児童をなくしていくというような、働いている親のための事業はどんどん進んでいますが、専業主婦などの家で子育てがしたい方のための事業はないのかなと思いました。
- ・金野委員 具体的な事業を示さないで、何もわからないままパブリックコメントを募るとするのは非常に難しいように思います。
- ・梶田委員 幼稚園は、保育所よりも制度に制限があるところがございますが、少しだけ仕事をしたいけど保育所には預けられない、子どもが歩くようになって疲れてしまうというお母さん方もおられるので、保育所だけではなく、幼稚園のニーズも拾っていただけたらと思います。

資 料	<p>【資料1】：奈良市子ども・子育て会議委員名簿</p> <p>【資料2】：「奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン」の平成30年度進捗状況について</p> <p>【資料3】：第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画について 3-1 計画策定スケジュール 計画概要 3-2 計画素案 第5章「教育・保育の量の見込みと確保方策について」</p> <p>【資料4】：第二期奈良市子ども・子育て支援事業計画素案</p>
-----	--